

# ウォールスタット直結CADの新機能

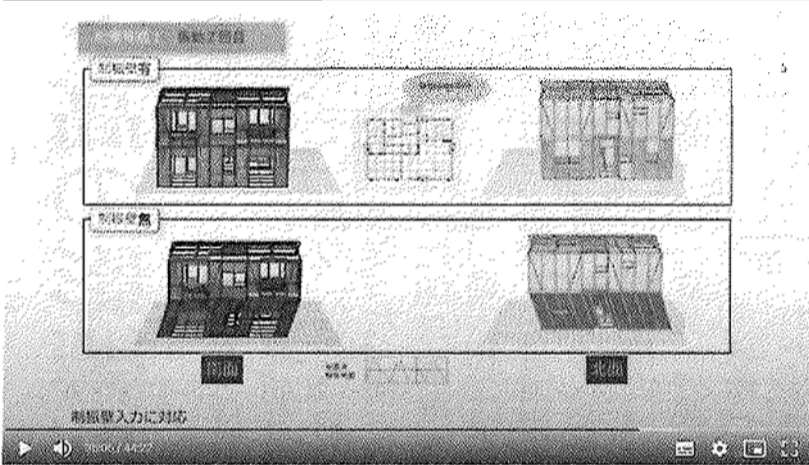
## ネットイーグル

### 実物件に即したシミュレーション可能に

ネットイーグル（福岡市、祖父江久好社長）は、プレカットCADのウォールスタット直結インターフェース（I/F）に新機能を追加した。入力の実物件が向上したほか、接合部のより詳細なデータが渡せるようになり、これまで以上に実際に即した倒壊解析シミュレーションが可能になった。プレカットCADデータを生かすことで、最も効率的に正確なシミュレーションができるシステムとして普及を図る。

プレカットCADのウォールスタット直結I/Fは、プレカットCADで入力したCADデータを直接ウォールスタット解析データに出力するシステムで、再入力の手間なく、倒壊解析シミュレーションができる。

主な新機能は、①プレカットCADによる耐力壁（面材）入力②接合部ごとの詳細パラメータ出力③金物2個使いの接合部パラメータ出力④基礎拘束フラグの出力⑤台形耐力壁の出力⑥端末間のウォールスタットデータ受



制振壁の有無による揺れ方の違いのシミュレーション

取付金物の耐力は接合部の収まり（対梁、対柱）や樹種などによって異なり、メーカーによって1つの金物で6種類のパラメータを設定している例もある。だが、従来は金

壁、準耐力壁をプレカットCADで直接入力

できるようにしたほか、制振壁も入力できるようにした。出力面では、金物1種類について1つしか出力できなかった金物のパラメータ（耐力）を接合部の条件によって複数のパラメータから自動で選択できるようにしたほか、2個使用した場合、それぞれの金物を個別に出力できるようにした。

物1種類について1つのパラメータしか出力できず、ユーザーは最も低い数値を選択して設定していた。また、梁受け金物や羽子板ボルトを2個使いする場合、従来は1個しか出力できなかった。

梁受け金物なら接合部形式（対柱、対梁など）、樹種、相手材の材厚の3種類、柱金物なら接合部形式（対梁、継ぎ手など）、収

まり（中柱、隅柱など）、樹種、スリット方向の4種類から正確

なパラメータが自動で決まるようにし、2個使いの場合もそれぞれの耐力を個別に出力できるようにした。

また、従来は認識されなかった玄関周りなどの高基礎も基礎に拘束されるようにしたほか、長方形でしか出力できなかった登り梁の下などの台形耐力壁、準耐力壁も出力できるようにした。